

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年11月14日

**【四半期会計期間】** 第22期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

**【会社名】** チエル株式会社

**【英訳名】** CHleru Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 川居 睦

**【本店の所在の場所】** 東京都品川区東品川二丁目2番24号

**【電話番号】** (03)6712-9721(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 若松 洋雄

**【最寄りの連絡場所】** 東京都品川区東品川二丁目2番24号

**【電話番号】** (03)6712-9721(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 若松 洋雄

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第21期 第2四半期 連結累計期間	第22期 第2四半期 連結累計期間	第21期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(千円)	967,364	815,671	2,005,599
経常利益又は経常損失( )	(千円)	120,040	120,059	253,604
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失( )	(千円)	101,783	151,954	183,926
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	101,783	151,954	183,926
純資産額	(千円)	1,426,579	1,316,416	1,515,890
総資産額	(千円)	2,479,639	2,271,817	2,442,192
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失( )	(円)	26.60	39.54	47.93
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	25.97	-	46.95
自己資本比率	(%)	57.5	57.9	62.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	151,239	252,130	141,438
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	256,670	82,218	462,017
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	14,616	105,630	16,012
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	640,774	655,742	427,024

回次		第21期 第2四半期 連結会計期間	第22期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失( )	(円)	30.40	10.87

(注)1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第22期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

## 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策等を背景に企業収益や雇用環境の改善が見られ、全体として緩やかな回復基調にて推移いたしました。

現在の学校教育を取り巻く環境の変化としては、2020年度より実施される新たな「学習指導要領」の公表及び教育政策「第3期教育振興基本計画」（計画期間2018～2022年度）の公表が挙げられます。これらに基づき、情報活用能力の育成、授業の改善及び教職員の業務改善を実現するためのICT環境の整備が進行しております。

このような市場動向のもと、当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績は、次のとおりとなりました。高校・大学市場では、教材提供クラウドサービス分野製品及び運用管理システム分野製品が前年同期比で増加した一方で、粗利率の低いハードウェアの仕入販売を抑制した結果、高校・大学市場における受注額は前年同期比で減少となりました。小学校・中学校市場における受注額は、授業支援分野製品及び教材提供分野製品が前年並みに推移したことに加え、無害化製品が寄与し、前年同期比で増加しました。これにより、高校・大学市場と小学校・中学校市場の受注金額構成比は66%：34%となりました。また、学校教育以外の市場においても無害化製品の受注が増加しました。

しかしながら、国内の受注案件に占める複数年契約の比率が前年同期より高まった影響から、会計上の売上高に計上される金額が前年同期より97,340千円減少しました。なお、当該受注分は前受金に計上されており、今後契約期間に応じて売上高に按分計上されてまいります。さらに、海外における講義支援システムの販売が低調であったため、前年同期比で39,291千円減少しました。これらを要因として、売上高は815,671千円（前年同期比151,692千円減）となりました。また、製品開発の推進によって製品製造原価が前年同期比で増加したことで、営業損失126,810千円（前年同期は営業利益53,102千円）となりました。持分法による投資利益が前年同期より59,740千円減少したことから、経常損失は120,059千円（前年同期は経常利益120,040千円）となりました。さらに、小学校・中学校市場向けに展開している授業・学習支援システム「らくらく先生シリーズ」について販売状況等を基にソフトウェア資産計上額の厳格な評価を行い、減損損失89,659千円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は151,954千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益101,783千円）となりました。

なお、当社グループの業績の特性として、第2四半期及び第4四半期において、売上高及び営業利益が偏重する傾向があります。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産の額は、2,271,817千円（前連結会計年度末は2,442,192千円）となり、170,374千円減少しました。これは主に、売掛金の減少204,510千円によるものです。

負債の額は、955,400千円（前連結会計年度末は926,301千円）となり、29,099千円増加しました。これは主に、前受金の増加125,956千円の方で、買掛金の減少13,883千円及び長期借入金の減少43,041千円によるものです。

純資産の額は、1,316,416千円となり（前連結会計年度末は1,515,890千円）となり、199,474千円減少しました。これは主に利益剰余金の減少151,954千円及び自己株式の増加47,520千円によるものです。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末より228,718千円増加し、655,742千円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、252,130千円の収入（前年同四半期は151,239千円の収入）となりました。これは主に、減価償却費96,470千円、減損損失89,659千円、売上債権の減少204,510千円及び前受金の増加125,956千円があった一方で、税金等調整前四半期純損失210,524千円が計上されたことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、82,218千円の収入（前年同四半期は256,670千円の支出）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入180,000千円があった一方で、無形固定資産の取得による支出が89,906千円が生じたことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、105,630千円の支出（前年同四半期は14,616千円の収入）となりました。これは主に、自己株式の取得による支出47,520千円が生じたことによるものです。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、1,122千円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,879,600	3,879,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であり ます。
計	3,879,600	3,879,600	-	-

(注) 提出日現在発行数には、平成30年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年9月30日	-	3,879,600	-	329,785	-	29,785

(5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
川居 睦	東京都大田区	1,022,300	26.58
アルプスシステムインテグレーション(株)	東京都大田区雪谷大塚町一丁目7番	360,000	9.36
(株)旺文社	東京都新宿区横寺町55番	360,000	9.36
大賀 昭雄	東京都千代田区	120,000	3.12
森 達也	東京都中野区	120,000	3.12
(株)旺文社キャピタル	東京都新宿区横寺町55番	90,000	2.34
(株)ダイヤ書房	北海道札幌市東区北二十五条東八丁目2番1号	61,000	1.59
資産管理サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	56,100	1.46
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	45,000	1.17
チエル社員持株会	東京都品川区東品川二丁目2番24号	40,500	1.05
計	-	2,274,900	59.14



(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 33,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,845,200	38,452	単元株数は100株
単元未満株式	普通株式 1,400	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,879,600	-	-
総株主の議決権	-	38,452	-

(注) 単元未満株式の欄には、当社所有の自己株式47株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) チエル株式会社	東京都品川区東品川二丁目2 番24号	33,000		33,000	0.85
計		33,000		33,000	0.85

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期連結累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	607,264	656,162
売掛金	653,425	448,914
有価証券	270	-
商品	38,570	63,954
貯蔵品	2,518	81
その他	164,588	143,152
<b>流動資産合計</b>	<b>1,466,637</b>	<b>1,312,265</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	20,373	20,063
無形固定資産		
ソフトウェア	267,450	233,691
のれん	164,737	155,666
その他	152,778	94,663
<b>無形固定資産合計</b>	<b>584,966</b>	<b>484,021</b>
<b>投資その他の資産</b>		
関係会社株式	236,544	243,154
その他	133,670	212,312
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>370,215</b>	<b>455,467</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>975,554</b>	<b>959,551</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,442,192</b>	<b>2,271,817</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	117,202	103,319
短期借入金	12,400	2,400
未払法人税等	29,990	18,307
前受金	480,723	606,679
賞与引当金	34,468	39,239
役員賞与引当金	2,292	943
その他	97,918	77,116
流動負債合計	774,995	848,006
<b>固定負債</b>		
長期借入金	81,064	38,022
退職給付に係る負債	24,873	26,021
役員退職慰労引当金	40,300	43,350
その他	5,068	-
固定負債合計	151,305	107,394
負債合計	926,301	955,400
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	329,785	329,785
資本剰余金	119,099	119,099
利益剰余金	1,087,077	935,123
自己株式	20,071	67,591
株主資本合計	1,515,890	1,316,416
純資産合計	1,515,890	1,316,416
負債純資産合計	2,442,192	2,271,817

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	967,364	815,671
売上原価	495,558	454,055
売上総利益	471,805	361,616
販売費及び一般管理費	1 418,703	1 488,427
営業利益又は営業損失( )	53,102	126,810
営業外収益		
受取利息	5	171
受取配当金	1,042	1,015
持分法による投資利益	66,350	6,610
保険解約返戻金	3	-
その他	368	558
営業外収益合計	67,771	8,355
営業外費用		
支払利息	245	940
為替差損	584	404
その他	3	258
営業外費用合計	833	1,604
経常利益又は経常損失( )	120,040	120,059
特別損失		
減損損失	-	89,659
その他	0	805
特別損失合計	0	90,464
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	120,040	210,524
法人税等	18,256	58,570
四半期純利益又は四半期純損失( )	101,783	151,954
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	101,783	151,954

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	101,783	151,954
四半期包括利益	101,783	151,954
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	101,783	151,954
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	120,040	210,524
減価償却費	73,085	96,470
減損損失	-	89,659
のれん償却額	4,918	9,070
支払利息	245	940
賞与引当金の増減額( は減少)	79	4,770
役員賞与引当金の増減額( は減少)	883	1,349
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	2,191	1,148
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	8,199	3,050
受取利息及び受取配当金	1,048	1,187
持分法による投資損益( は益)	66,350	6,610
売上債権の増減額( は増加)	35,179	204,510
たな卸資産の増減額( は増加)	8,053	22,947
仕入債務の増減額( は減少)	20,935	13,883
前渡金の増減額( は増加)	9,949	5,310
前払金の増減額( は増加)	45,145	16,588
前払費用の増減額( は増加)	1,869	1,133
未払金の増減額( は減少)	5,884	8,563
未払消費税等の増減額( は減少)	4,701	10,857
未払費用の増減額( は減少)	5,859	243
前受金の増減額( は減少)	14,942	125,956
その他の流動資産の増減額( は増加)	122	9,068
その他の流動負債の増減額( は減少)	3,754	1,265
その他	140	1,314
小計	193,532	280,942
利息及び配当金の受取額	1,065	1,143
利息の支払額	579	963
法人税等の支払額	42,778	28,991
営業活動によるキャッシュ・フロー	151,239	252,130
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	180
定期預金の払戻による収入	360	180,000
有形固定資産の取得による支出	2,815	3,887
無形固定資産の取得による支出	122,321	89,906
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	56,086	-
関係会社株式の取得による支出	107,800	-
貸付けによる支出	80,000	-
敷金及び保証金の差入による支出	279	3,807
その他	100	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	256,670	82,218

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	35,010	-
長期借入金の返済による支出	29,678	58,110
株式の発行による収入	9,355	-
自己株式の取得による支出	71	47,520
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,616	105,630
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>		
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	90,814	228,718
現金及び現金同等物の期首残高	731,589	427,024
現金及び現金同等物の四半期末残高	640,774	655,742



【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日至平成30年9月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
給料及び手当	115,228千円	142,568千円

2 売上高及び営業利益の季節的変動

当社は事業の性質上、売上高及び営業利益が第2四半期連結会計期間および第4四半期連結会計期間に集中する傾向があり、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年4月 1日 至 平成29年9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年4月 1日 至 平成30年9月30日)
現金及び預金勘定	860,834千円	656,162千円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	220,060	420
現金及び現金同等物	640,774	655,742

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間(自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年 9 月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、教育事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( )	26円60銭	39円54銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	101,783	151,954
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	101,783	151,954
普通株式の期中平均株式数(株)	3,826,686	3,842,648
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	25円97銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	93,076	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月13日

チエル株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 柏 木 忠 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岩 崎 剛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているチエル株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、チエル株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。